
第1回自治体 EXPO フォーラム

～大阪・関西万博に向けて

開催報告

第1回自治体 EXPO フォーラム ～大阪・関西万博に向けて 開催報告

『第1回自治体 EXPO フォーラム～大阪・関西万博に向けて』を、2021年10月11日(月)オンラインにて、一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構主催で開催致しました。経済界、学界、医学界、経済団体、行政 機関等から沢山の方々にご参加いただき、盛大に開催できました事を厚く御礼申し上げます。

開会の辞

野田 義和氏 東大阪市長

本日は、『第1回自治体 EXPO フォーラム』を東大阪花園ラグビー場で開催をさせていただきますことを本当に嬉しく思っております。2025年の万博は大阪、関西にとってまさに運命の分かれ道ではないかと考えております。この万博に対して、大阪府内、また関西の自治体はどう取り組んでいくか。それぞれの自治体の持つべきもの、素晴らしいものを情報発信する。同時に、この万博に集まってくる世界中からの情報をどう活用していくか。我々



は賑わいイベントとして万博を見るのではなく、大阪の関西の未来をつくるための万博、そういう思いでこの万博をどのようにそれぞれの自治体で具体的政策として取り組んでいくか。そんな中で、この夢洲機構の皆様とは機会あるごとに勉強、研鑽を重ねているところであります。

本日は、ここ花園ラグビー場で自治体 EXPO フォーラムを開催させていただきます。また、本日は万博協会広報戦略局企画局長堺井様をお招きし、ご講演もいただきます。また、東大阪市内で開催をしておりますが、私、本日18時に全国市長会会長とともに岸田総理に総理官邸でお会いすることになり、途中で中座をすることをお詫び申し上げます。改めまして、大変素晴らしい機会を設けていただきました夢洲機構の皆様へ、心から感謝とお礼を申し上げまして開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

第1部 講演

◆講演

野田 義和氏 東大阪市長

東大阪市長が今、どのような考え方で万博と向き合っているかをお話申し上げます。

まず、ぜひ万博に向けて、或いは万博後も含め、東大阪市長を実験、実証の場所として使っていただきたい。まさに東大阪市長がリビングラボであり、オープンイノベーションのフィールドである、私はそう考えて万博に向けて取り組んでいます。企業、大学、多くの法人の皆様方にはぜひ東大阪市長を活用していただきたい。東大阪市長はこのために、東大阪市長の持つ全てを皆様と一緒に将来のために、実証実験を含めた取り組みをしていきたいと考えております。



東大阪市は、大阪府内で人口 3 番目の自治体ですが、面積は 61.78 km² と非常に狭い、密度の高い自治体です。また、海には面しておらず、飛行場もありません。海と飛行場に関わる全ての課題がこの東大阪市にあるとお考えいただければと思います。

東大阪市は道路交通面では東大阪 JCT があり、ここを起点に関西空港、伊丹大阪空港、大阪港、神戸、京都、奈良、大阪市、和歌山市へほぼ 1 時間あれば車で移動できる交通の要所です。また、万博会場で

あります夢洲へは大阪メトロ、中央線 1 本で接続ができます。また、JR 大阪東線は新大阪駅と直結しており、東大阪市内の駅では新幹線の切符で乗り降りができる特例も与えられています。このように、交通の非常に利便性の高い自治体です。

ここ、東大阪市花園ラグビー場は日本で最初につくられたラグビー場です。ラグビーのまち東大阪市ですが、ラグビーだけでなく、サッカー、野球、バレーボール、バスケットボール、ウィルチエアスポーツ、車椅子ラグビー、車椅子ソフトボール等、スポーツをまちづくり、健康づくり、子どもたちの学びに活かしていこうという取り組みをしているところです。全て東大阪市内です。このように、交通の非常に利便性の高い自治体です。あわせて、やはりラグビーの聖地、花園ですので、いつかは花園で一度はラグビーをしたいという皆さんのご期待に応えられるような「マスターズ花園」という取り組みも具体的に検討しているところです。

先程、ラグビーだけではなくと申し上げましたが、例えば FC 大阪。サッカーチームですが、J リーグ入りを目指して懸命の戦いをしています。そういったところもホームタウンにしたいということで、積極的な取り組みをしています。

先程、官民連携、公民連携と申し上げましたが、1 つの特色として東大阪市は大阪大学医学部歯学部と、東大阪市といえば中小企業のまち、町工場のまち、ものづくりのまちですので、大阪大学の医学部歯学部と医工連携を行っております。ちなみに、大阪大学医学部歯学部で自治体が両学部と連携しているのは本市だけです。具体的には、医療にかかる国際見本市「メドテックジャパン」へ東大阪市の医工連携として出店し、あるいは東京のメディカルヒルズ本郷で「本郷展示会」という医療関係機器の展示会を行っております。どれも大変多くの方が東大阪市の医工連携に関心を示していただき、毎回多くの方がお越しをいただいております。

官民連携、公民連携の 1 つの形として、東大阪市内に大阪府企業団から水道水供給を受け、市内各所に水道給水をしておりますが、この水道水の圧力を利用してのマイクロ水力発電にも取り組んでおり、配水場に 1 基設置しました。これ実は、マイクロ水力発電所、府下最大級でございます。発電量はさほど大きなものではありませんが、CO₂ 削減で年間約 250t、甲子園球場 5.5 個分の森林が 1 年間に吸収する CO₂ に相当する、そういった意味で我々官民連携から発電という直接的経済メリットを受けておりますが、まさに SDGs が求める持続可能な社会づくり、地域づくりということで、環境のことを考え取り組んでいます。まさに事業者、自治体、そして SDGs、これらが万博に向けて、さらなる公民連携の必要性があると私どもは考えております。

万博に向けた取組みということで、特に SDGs。東大阪市はものづくりまちで、1 つのものづくりがいわゆる歯車、つくっている町工場が沢山あります。SDGs のシンボルマークを歯車に見立て、東大阪市独自の「HIGASHIOSAKA SDGs GEAR」を作りました。ちなみにフォントは近畿大学とデンマークのコントラプンクト社という世界的に有名なデザイン会社とコラボし、「東大阪フォント」というものを作って、積極的に活用をしています。

また、東大阪市には沢山のものづくり企業、町工場があります。そして万博に向けて何をどう考えていけばいいのか、さらに万博の先に何があってどのような取組みをすればいいのか、市内企業向けの万博セミナーを実施させていただいております。市内企業と一体となって、万博に向けてのウォーミングアップを進めているところです。

具体的な形をつくりたいと思い、花園ラグビー場がある花園中央公園を利用して万博に対して具体的に東大阪市の多くの企業、あるいは大学が何ができるか、あるいは未来社会の実験場となるために具体的にどうすべきかを考えるきっかけづくりとして花園万博を検討中でございます。

大阪・関西万博にどう取り組んでいくのか。その後、この万博で得たものをそれぞれの自治体、あるいは大阪・関西全体でどうつなげていくのか。これができるかできないかによって、関西の再生、東京に対峙する大阪・関西になり得ない。ぜひ、まさにワンチームで大阪・関西万博を1 つの賑わいイベントではないという思いを持って、万博の本質をしっかりと理解して、それぞれの自治体にできることを日々考えながら取り組んでいきたいと思っております。夢洲機構を通じて多くの企業、大学等様々な組織体が情報交換をしていきたいと考えております。しっかりと大阪・関西万博に向けての努力をして参りますので、引き続きご支援、ご協力、積極的な東大阪市のご利用をお願い申し上げます。ありがとうございました。

◆基調講演

堺井 啓公氏 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 広報戦略局長兼企画局長

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会の堺井でございます。宜しくお願い致します。

大阪・関西万博は2025年に開催されます。テーマは『いのち輝く未来社会のデザイン』、サブテーマは「いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ」、コンセプトは「未来社会の実験場」です。会場は大阪・夢洲、開催期間が4月13日～10月13日の半年間、想定入場者数は2820万人で、1日に20万人以上来る日があると想定しております。こ



この大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会」ということで、コロナウイルスの感染症を乗り越えた先の新しい時代に向けて世界が1つになるということに意義があります。

次に、「SDGs 達成・SDGs+beyond の飛躍の機会」へということです。SDGs は国連で採択された持続可能な開発目標で、2030年の達成目標年までに持続可能な地球、社会を実現するためにどう行動するかというものですが、このSDGsの達成に向けたこれまでの進捗状況を確認し、達成に向け

た取り組みを加速させる機会にしていこうと思っています。また、2030年以降の次なる目標である「SDGs+ beyond」も視野に入れた万博にしたいと思っています。

そして、「Society5.0の実現に向けた実証の機会」ということで、超スマート社会、色々な未来社会を先取りした新しい技術、新しいサービスの社会実装に向けた未来社会の実験場にしたいと思っています。また、日本の飛躍の機会、契機にということでもSociety5.0もあります。デジタルトランスフォーメーションによる社会変革の新たな形や、地球環境問題の新たな挑戦の姿を世界に示していきたいと思っています。こういったことで、この大阪・関西万博が人々の行動変容につながり、理想とする社会の実現に向けた取り組みへの機会になればと思っています。それによって経済、社会、文化、あらゆる面で大阪、関西のみならず日本全体にとっての更なる飛躍の機会としていきたいと思っています。

万博は2018年11月に開催国が日本に決定し、昨年、アンバサダー、プロデューサーを選定、ロゴマークを決定しました。政府では博覧会推進本部が発足し、万博担当大臣が就任されました。そして、BIE（博覧会国際事務局）総会を経て登録申請書が承認され、万博の基本方針が閣議決定され、マスタープランである基本計画を万博協会で策定・公表しました。そして今年8月には、出店参加説明会を開催しました。大阪・関西万博は、世界150カ国の参加を目標にして、誘致活動を進めております。10月からドバイ博が始まったところで、会場で一生懸命大阪・関西万博への参加招請を行っています。また、現在企業・団体パビリオンを募集しており、早ければ12月に発表されます。万博協会は、経済界の代表、地方自治体の代表など、様々なセクターの方に理事となっていて、国のイベントとして約280名の人員が集まって準備に取り組んでおります。場所は海に囲まれた夢洲です。大阪メトロ中央線の終着駅から夢洲に延伸された新駅ができる予定です。会場の大きさは155haで、大屋根のリングがあり、非中心、離散の理念によって多様性を鼓舞し、そこにつながりを重ね合わせた、多様でありながら1つというデザインで、この大屋根は1周約2km、直径約600m、高さ12m、幅30mで、リングの内側に各国のパビリオンが展開するイメージです。万博のテーマを実現するため、未来社会の実験場というコンセプトをもとに「世界との共創」「テーマの実践」「未来社会のショーケース」の3つを実施していきます。

公式参加パビリオンは、150カ国および25の国際機関の参加を目指して招請をしております。会場配置は大屋根のリングの中に静けさの森があり、その周りに公式参加パビリオンがあります。図の右側には日本館があり、下には迎賓館や庭園を設け、大阪府市館、他自治体館が東エントランスの近くに存在するという形になります。エントランスは東西2カ所を設けております。今57カ国の国際機関招致がなされているところです。

この万博は多様な参加形態があることが1つの特徴です。パビリオンの出展、テーマ事業への協賛、未来社会ショーケース事業、会場整備参加、運営参加、TEAM EXPO 2025プログラムへの参加等です。TEAM EXPO 2025プログラムは会期前から理想の未来社会をつくるための共創チャレンジという活動とそれを支える共創パートナーによる活動で進めていこうとしています。企業・団体パビリオンは、万博の華となる事業として進めて参ります。

テーマ事業ですが、いのち輝くプロジェクトという名称で各分野の最前線で活躍する専門家にこのプロジェクトを進めていただくことにしております。静けさの森の南側に「シグニチャーパビ

リオン」という象徴的なパビリオンを置き、また象徴的なイベントということで「シグニチャーイベント」を実施するという形にしています。

次に、未来社会ショーケース事業ですが、こちらは未来社会の実験場を進めていくために、まだ世の中に出ていないものを中心に万博会場で実証、実装という形で手掛けていく事業で、スマートモビリティ、デジタル、バーチャル、アート、グリーン、フューチャーライフという6つのカテゴリーに分けて展開しています。スマートモビリティは、空飛ぶ車の発着場を設けたいと思います。モビリティでは、シャトルバスで電気自動車や水素自動車や、シャトルシップ、そういったものも展開したいと思います。カーボンニュートラルに対応し、MaaSに対応した未来の交通システム導入もしていきたいと思います。デジタルでは、来場者向けのパーソナルエージェントということで、ストレスなく会場内を回遊できるようなスマートフォンの体験を通じた価値向上をしていきたいと思います。高速大容量通信環境やサイネージ・大型映像装置を使ったものや自動翻訳システムも進めたいと思います。バーチャルでは、会場に来ていただいてリアル空間の中でスマホを使ったXRの演出や、会場の外からでもオンラインで参加できるバーチャル会場を展開していくことも考えています。アートでは、例えば大屋根のリングを使ったプロジェクションマッピング、パレード、ストリートパフォーマンス、パブリックアートやウォーターワールドの夜間スペクタクルショー等も展開していきたいです。グリーンでは、カーボンニュートラルに向けた取り組みや廃棄物、リサイクル、CO2回収の設備にも取り組みたいと思っています。そして、フューチャーライフでは、グリーンワールドエリアをフューチャーパークと名付け、未来の生活を感じさせるエリアにし、ヘルスケアや食、文化、芸術等を展開したいと思っています。

次に、TEAM EXPO 2025 プログラムについて、会期前から万博のテーマやSDGsの達成に貢献する活動を行い、会期中に活動成果をベストプラクティスエリアで披露する形にして、会期後にはレガシーとして残したいと思います。

他にも、野外イベント広場、メッセ会場、大催事場、小催事場等、様々なステージを用意し、各種イベントや催事も開催したいと思っています。自治体さんが催事に参加する機会も大いにあります。

自治体との共創について、TEAM EXPO 2025 プログラムにご参加いただきたいと思っています。野田市長のお話にもありましたが、自治体にはフィールドがあり、住人がいます。そのフィールドを使い、未来社会に向けた取り組みが重要になってくると思います。例えば食品ロスの削減、ごみ減量に関する取り組み、環境・エネルギー、新事業・新産業の創出を目指す活動、健康寿命を高める取り組み、アート、デザインの力を活用したSDGsの発信、社会活動、地域のお祭り、子どもを中心とした交流イベント等様々なイベントや活動が展開されると思います。そういったものを万博会場から世界に向けて発信できると思っています。

また、教育プログラムを展開しております。総合学習の時間に万博、SDGsを学ぶ活動を昨年度は大阪府下の小中学校14校で実施をさせていただきました。2021年度は関西圏へ拡大していくということで学校数も増えています。また、万博に来るとともに各地域に行く、各地域に来られたときに万博会場にも来ていただくという、そういった相互の効果をどれだけ出していくことができるかが非常に大事かと思っています。各国のナショナルデーを設定しますので、来日される

方々を地域にお呼びしたり、全国から修学旅行生に交流の場を提供したりという話があると思います。

また、MaaS等の先端技術も投入しながら、地域ポイント、地域通貨も活用しながら万博に来られた方がさらに色々な所に行かれることを考えていければと思っています。

今後のスケジュールとしては、2021年、2022年は計画の最盛期です。入場券発売が2023年に始まり、具体的な参加方法がどんどん見えてきます。国家事業である万博はまさに東京オリパラの実証実験、実装実験、そして愛知万博の「自然の叡智」を引き継ぐものです。

万博は参加する各国と企業のつながりを強化する場であり、日本ブランドを大いに売り込む機会でもあります。万博は未来社会の実験場で、まさにここでなければいけないということを世界に示すとともに、万博をいかに活用して大きくステップアップするか、チャレンジの場として可能性に満ち溢れていると思います。ぜひ皆様方と一緒にやっていきたいと思っています。ありがとうございました。

◆講演

永野 耕平氏 岸和田市長

岸和田市長の永野耕平です。宜しくお願いします。

岸和田市は大阪南部に位置しており、JR 阪和線、南海本線、阪神高速湾岸線、阪和自動車道、国道 26 号線等、大阪市内や関西国際空港への交通の利便性も非常に良く、海から山まで豊かな自然に恵まれております。そして、面積は 72.72 km²、人口は約 19 万人です。岸和田市は実は大阪で最も古い一般市で、大正 11 年に市制施行し、来年には市制施行 100 周年を迎えます。非常に市の歴史は長いですが、我々としてはベンチャー企業の経営者のような感覚でどんどん新しいことをやっというと思っています。



岸和田は農業と漁業が非常に盛んで、耕種農業産出額が大阪府一です。岸和田市で種が開発された彩誉（アヤホマレ）というニンジン一般的なニンジンに比べ非常に甘く、イチゴぐらい甘いニンジンです。包近の桃も非常に有名で、世界で最も甘い桃としてギネスブックに認定されています。漁獲量も大阪府内 1 位で、大阪府の 70~80%の漁獲量が岸和田の海で上げられています。そして、漁港が主催する地蔵浜みなどマルシェが毎週日曜日にあります。緊急事態宣言で開催できていない時期がありましたが、毎週日曜日また開催できますので、どうぞお越しいただきたいと思っています。

岸和田は産業も盛んで、臨海部には大阪鉄工金属団地があり、企業が集積しています。このうちの 1 つである北海鉄工所様は、各種産業設備やタンク、圧力容器の両端にある鏡板の分野において国内のシェア No.1 を誇っておられ、金属を曲げる技術が非常に高いということで、神戸市長田区にある阪神淡路大震災復興シンボルである鉄人 28 号も北海鉄工所様がつくられました。こうい

ったモニュメントも沢山つくられています。

次に、岸和田城について、戦国時代末期には現在の場所に既にお城があったとされています。豊臣秀吉もこの岸和田城に入城したことがあると言われております。残念ながら江戸末期に落雷によって天守が焼失しており、現在の天守閣は昭和 29 年に再建されたものです。大阪府内で天守閣があるお城は大阪城と岸和田城だけです。また、当時のままの石垣等歴史的遺産も多く残っており、続日本 100 名城にも選出されています。戦後復興天守閣の中では日本で 2 番目に古いと言われてる再建されたお城ではありますが、市民に親しまれた歴史的な価値のあるお城です。岸和田城は別名千亀利城と呼ばれています。この由来は、上から見ると機織り機の部品の「ちきり」に似てるからと言われていたのですが、このちきりが契りと音が似ていることから、天守閣で結婚式を挙げるお城結婚式が非常に人気で、既に 157 組が挙式を挙げられています。お城前の庭園等で挙式できるお城は他にも沢山ありますが、天守閣で挙式ができるのは岸和田城だけです。

また、11 月 22 日からハリウッド映画『G. I. ジョー 漆黒のスネークアイズと』が公開されますが、登場する忍者たちの拠点となっているお城という設定で、岸和田城で大々的にロケが行われました。誠心誠意対応させていただいて作品づくりに我々も協力させていただき、本当に素晴らしい映画ができました。全世界に岸和田城の魅力が発信されます。他にも、戦国武将明智光秀の肖像画は 1 つしか存在しておらず、それが岸和田市のお寺にあることや、同志社大学、同志社女子大学今出川キャンパス校舎に使われているレンガの多くが岸和田で製造されたレンガである等、岸和田自慢は沢山あります。岸和田市のふるさと納税では、ビーズソファ「ヨギボー」が主力商品で、ヨギボーのビーズの部分が岸和田で製造されているので返礼品として使われております。

次に、岸和田市はパンダ協定を南紀白浜アドベンチャーワールドと結んでいます。パンダは非常にグルメで、アドベンチャーワールドのパンダは岸和田の笹しか食べないと言われており、岸和田の笹が主にアドベンチャーワールドに運ばれます。さらに、パンダごとに好みが違うので、岸和田から仕入れた笹をパンダごとに好みに分けて食べさせているそうです。

関西万博にあたって関西企業の皆さんに申し上げたいこと、それは今回の万博は海の万博です。海の万博を合言葉に、我々と一緒に頑張っていたいただきたいと思います。生命は海から来ましたので、もう一度、海についてしっかりと考え、海の万博を皆で考えていきたいと思っています。

最後に、岸和田市は 100 年経つ古い自治体ですが、新たな試みにしっかりと挑戦していきたいと思っておりますので、どうぞ岸和田を実証実験の場としてご活用いただいて岸和田の課題解決と一緒に取り組んでいただく中で、万博への確かな一歩を一緒に歩んでいただきたいと思います。ありがとうございました。

第 2 部 プレゼンテーション

◆プレゼンテーション

濱田 剛史氏 高槻市長

高槻市長の濱田剛史です。本日はお招きをいただきありがとうございます。高槻市から大阪・関西万博に期待することということでプレゼンテーションをさせていただきます。

まず、高槻市は、人口が約 35 万人、大阪と京都の中心に位置し、交通の要衝、拠点として発展し、

SDGs 先進度ランキングでは、大阪府内 4 位と評価をいただいています。新名神高速道路と名神高速道路が交わる所に高槻があり、最近高槻 JCT・IC ができ、アクセスも非常に便利になってくるであろうということ、電車も JR と阪急が通っており、京都と大阪へそれぞれ 15 分弱で到着する利便性があり、昭和 40 年代に京都、大阪等の周辺のベッドタウンとして発達した都市です。



高槻市は実は非常に豊富な歴史遺産、歴史資産を持っており、歴史資産活用の取組をしています。まず、今年に入って全面開園しました安満遺跡公園は、安満遺跡という弥生時代の集落跡が発掘され、弥生人の生活が分かったと言われている非常に貴重な遺跡であり、国史跡に指定されております。国宝級の遺跡ということで高い評価を受けていますが、駅から徒歩約 10 分の非常に近い場所にある広大な遺跡ということもあり、公園として整備をして賑わいづくりにも活用し、遺跡に親しんでいただいています。高槻は古墳の多いまちで、その中心になっている今城塚古墳は、第 26 代天皇である継体天皇の真の陵墓と言われています。実は宮内庁が治定している継体天皇陵は茨木市にあるのですが、発掘調査、文献調査の結果、この今城塚古墳が継体天皇の墓領であると学術的にほぼ確定したということで、唯一、日本で立ち入ることのできる天皇陵となりました。古墳の遺跡から沢山の埴輪が出土し、古墳のすぐ横の祭祀場に兵馬俑様の埴輪が並んで出土しました。この埴輪群の数は日本一であり、天皇陵がどういった形態、規模であったというのが分かった非常に貴重な遺跡です。この古墳を高槻市は大変大切にしており、すぐ横に古代歴史館も整備をしています。

京都が近いということもあり、戦国時代の遺跡である芥川山城跡もあります。これは織田信長が近畿を治める前に、阿波の大名であった三好長慶という大名が近畿を治めた際に中心になったお城です。当時は、京都とその周辺、いわゆる畿内を治めなければ天下人とされませんでしたので、戦国時代初めての天下人がこの三好長慶で、その政治の中心であったのがこの山城です。関西、畿内はまさに日本の中心であったということがこの山城跡からも伺えます。規模も非常に大きく、国の史跡指定を目指して整備を進めているところです。

また、市内の中心部には高槻城趾があります。この高槻城趾を整備し、最近高槻城公園という名称に変え、新しい市民会館も令和 4 年度開館予定です。将来的には、岸和田市さんのように立派な天守閣を本丸跡に建てたいということで、今から整備を進めています。まずは、市民会館周辺堀を穿って城跡の雰囲気を出していこうと進めています。大阪府内ではこういった城下町があるのは岸和田城、大阪城、高槻城と言われており、この資産も大切にしていきたいと思っています。この高槻城趾から沢山の将棋駒が出てきて、江戸期に高槻藩を治めた永井家が非常に文化に造詣が深く、将棋も非常に盛んに行われていたということもあって、将棋連盟と包括連携協定を締結させていただきました。また、多くの棋士が高槻市にお住まいということもあり、大阪市の福島区にある将棋連盟の西日本の拠点施設である関西将棋会館が、令和 5 年には大阪市福島区から高槻市に移転をする予定です。これにより、全国の棋士が対局に高槻市にお集まりいただけると楽

しみにしています。

なぜ歴史資産が今回のテーマなのかということ、日本もこれだけの太古から受け継がれてきた世界に誇れる歴史、伝統文化があるということです。私は今回、万博という国際的イベントを行うにあたって、この日本の世界に誇れるこの歴史、伝統文化を世界に発信していく必要があるのではと思っています。国際的になるにはまず自国の文化、歴史を大切に、しっかりと理解する必要がある、SDGsの精神にもそれが合致するのではないかと考えています。そういうことで、関西の企業、そして夢洲機構に期待することは、この万博が、日本の文化、関西の文化、文明を世界に理解していただくためのイベントになればと思っています。ご清聴ありがとうございました。

◆プレゼンテーション

千代松 大耕氏 泉佐野市長

どうぞよろしくお願ひ致します。本日は『泉佐野市の関係交流人口』というテーマでお話をさせていただきます。私は1973年10月3日生まれで、大学はアメリカ留学を終えてから株式会社堀場製作所に入社しました。その後、26歳で泉佐野市議会議員選挙に初当選し、以降4期市議会議員を務めました。その間、泉佐野青年会議所の理事長や泉佐野市議会の議長を経て2011年に泉佐野市長に就任して現在3期目です。そして今年の夏、全国青年市長会



という50歳までに当選された方が入会の資格を持つ、全国88市現在加盟している団体の第33代会長に就任しました。学生時代は、体育会のアメリカンフットボール部に所属しており、趣味はマラソンを走ること、泉州の堺市から岬町までの13自治体で9市4町の自治体や池田泉州銀行さん、関西エアポートさんと構成するKIX泉州ツーリズムビューローが主催するKIX泉州国際マラソンに出場して完走しております。

泉佐野市は面積が56.51㎢、人口10万人弱のまちです。高齢化率は26.5%と比較的まだ低い自治体です。泉佐野市は京都市と並んで日本一海外の友好都市を持つまちです。アフリカや南米等9つの海外の友好都市があります。9つの友好都市とは別に1つの友好関係都市もあります。

次に、泉佐野市は特産品相互取扱協定という全国44都道府県、47自治体さんとそれぞれの特産品を地元特産品と同様に扱っていかうという特産品に限定した協定を結んでいます。

泉佐野市ではこのように海外の友好都市や、日本国内では特産品の相互取扱協定締結で色々な交流をしてきました。大阪・関西万博では、こういった泉佐野市の関係・交流人口を総動員して大阪・関西万博を盛り上げていきたいと考えておりますし、関西エアポートの山谷社長がずっと「関空は大阪・関西万博のファーストパビリオンになる」と言われております。泉佐野市はそういった海外の友好都市の多様性や全国の日本の素晴らしさを泉佐野市に凝縮してセカンドパビリオンと呼んでいただけるように目指して参りたいと考えております。ご清聴ありがとうございました。

◆プレゼンテーション

水野 謙二氏 阪南市長



阪南市の水野です。本日は貴重な機会をいただきありがとうございます。阪南市は、大阪府最南端の市、海と山が会うまちです。大阪からは 45km、電車で 40 分、和歌山は 10km 圏内です。海岸線が 8km あり、3 つの漁業組合を抱えています。ほとんどが自然海岸で、どこでも釣りが楽しめるまちです。

次に、SDGs の取り組みを紹介します。SDGs 理念は、誰も取り残さない社会とされています。くしくも阪南市は『誰も 1 人ぼっちにしない、誰も排除しな

いまち』と実は私の就任当時から掲げております。誰もが自分らしく豊かに暮らせるまちをどう実現するかに取り組んでいます。市民参画によってシビックプライドをしっかりと醸成し、公民協働を広げていくために、市民は観客からプレーヤーへ、行政はプレーヤーではなくコーディネーターへ転換をしていこうと役割を変えたところです。自分たちのまちは自分で守ってつくる。SDGs は大切なキーワードです。

次に、公民協働と阪南市でもよく言います。私どもが公民協働と使うときには市民からの目線で、立ち位置の違うのが企業と市役所と捉えています。市民と企業と市役所がしっかりと 3 つの輪が重なり合っていたいただかなければいけません。まず市役所と企業が連携をしていくことが重要だと考えています。近年、多くの企業の皆さんが連携を結んでいただいています。三井住友海上火災保険株式会社さんには SDGs セミナー等や市民の見守り、安全安心にもご協力をいただいています。FC 大阪さんとの連携協定を結ばしていただき、4 年前から阪南市の活動を紹介する阪南 TV の運営をしております。そして、伊藤園さんとは認知症になっても健康で当たり前のよう暮らせるまちをどうつくるのかを進めており、自動販売機も SDGs 柄を付けていただき、大変その周知に役立っているところです。

そして、阪南市の強みはやはり環境です。環境は市の強みであり、大きな社会的責任だと考えています。全国アマモサミットを 2018 年に開催をさせていただき、全国から様々な方に来ていただき、漁業組合の方や子どもたちが登壇し、海の豊かさを確認いただきました。そのアマモサミットを成功させた立て役者が子どもたちで、G20 大阪サミットで配布したプログラムでは『海はいのちの源』というテーマで非常に立派に報告をしていただきました。大阪湾初のカキの養殖もしており、2 つの漁業組合で成功しています。令和 2 年には横浜ブルーカーボン・オフセット制度に認証していただきました。ワカメの養殖が中心ですが、ワカメに吸収付着した CO2 をオフセットとしてクレジットとして提供させていただく。これも関西初です。泉南地域初でゼロカーボンシティの宣言もさせていただき、2050 年に市内 CO2 排出ゼロに挑戦しています。

もう 1 つは健康です。高齢化率が 33% です。今、コロナ自粛によるコロナフレイルから乗り越えていくには社会的な処方という言葉もございます。まちづくりの活動と併せ、しっかりとフレイルを乗り越えていきたいと取り組みを進めています。令和 2 年にスポーツ庁の助成をいただい

た運動習慣化事業です。関西医科大とミズノさんとの協定で取り組みを進めました。認知症当事者や家族の方たちがマスターズガーデンを開催しています。これは文化センターの中の図書館に併設をしているコーナーで、月曜日は障害のある子どもたちのお母さんたち、水曜日は手話、木曜日はマスターズといった形で市内 43 カ所のカフェサロンが展開しています。

そして、我々のやはり強みは市内で活動する市民プレーヤーの多さです。2000 年、介護保険創設時に公民協働で 1 冊の地域福祉推進計画を立て、阪南モデルという形でこれまで地域福祉を展開しています。豊かな海山、企業や団体様と協働、共創の場としてのフィールドを里山、里海、里川。多くの地域活動の場として提供させていただきたいと思います。

阪南市が抱える課題は人口です。1970 年に 2 万 8000 人であった人口が、1991 年には 5 万人を突破して市になり、2002 年のピークを乗り越えて、今 5 万 4000 人に下がってます。2040 年には、3 万 7000 人まで落ちていくという怖い想定があり、対策を練っています。そして、このまちはベッドタウンで育ってきましたので、どうしても進学、就職をすると子どもたち、青年たちは市を出てしまいます。コロナ禍で急激に変化する生活スタイルを、ホームタウンをつくり変えていく中でつくり上げていきたいと考えています。

最後に、関西の企業や団体、夢洲機構への期待は、里山里海をフィールドに活用する環境保全の活動での企業の皆さんとの連携です。自然体験、スポーツ、健康増進、フレイル予防、認知症、阪南市において、しっかりと展開していきたいと思います。ありがとうございました。

◆ビデオメッセージ

伏見 隆氏 枚方市長



枚方市長の伏見隆です。本日は公務のためビデオ出演となりましたが、このような機会を設けていただき誠にありがとうございます。大阪・関西万博にかける思いと、枚方市が思い描く姿について少し理想を膨らませながらお話しさせていただきます。

2025 年の大阪・関西万博の開催により世界各国から人と物が集まり、最先端技術が結集した新しい社会が提示されます。大阪からいのち輝く未来を発信できることに今から大きな期待を寄せているところです。世界中が注目する万博開催の前後を通して、メイン会場だけでなく大阪、そして関西の全域を皆さんと一緒に盛り上げていきたいと考えています。

そこで枚方市の万博を契機とする観光ビジネス都市構想について、企画検討段階の案ですが少し紹介させていただきます。枚方市は昔から交通の要所として栄え、大名行列等も淀川の舟運を活用して東海道五十七次の 56 番目の宿場町である枚方宿を通過して、大阪から京へ登って行きました。この地理的好条件と歴史的文化を生かした賑わいの創出を考えています。枚方市東部地域には自然豊かな空間が広がっており、そこにウェルネスのキーワードを乗せて心身ともに生き生き

と再生できる場として、枚方においても『いのち輝く未来社会のデザイン』をと考えています。東部地域を未来社会の Suggestion Area として多くの企業や事業者の皆さまにご提示できればとも考えています。また、AI、VR 等、先端技術をはじめ、特色ある市内 5 大学の外国語、医療、情報、農学のナレッジ、淀川クルージング等の活用や大型商業施設との連動ができないかと考えています。さらに、ひらかたパークと連携し、万博を見据えた観光施策を推進していくことになりました。TEAM EXPO 2025 共創パートナーとして、ひらかたパークと一緒にわくわくの連鎖を創出していきたいと考えます。

With コロナの社会を見据え、皆様との取り組みによって万博の価値をさらに上げるとともに、大阪・関西の賑わいにもつなげていきたいと強く願っています。ありがとうございました。

第 3 部 座談会



<登壇者>

- ◆堺井 啓公氏 (公社) 2025 年日本国際博覧会協会 広報戦略局長兼企画局長
- ◆永野 耕平氏 岸和田市長
- ◆濱田 剛史氏 高槻市長
- ◆千代松 大耕氏 泉佐野市長
- ◆水野 譲二氏 阪南市長
- ◆川口 誠司氏 東大阪市副市長

<モデレーター>

- ◆石川 智久氏 (株) 日本総合研究所 調査部 マクロ経済研究センター 所長

石川氏：皆様ありがとうございました。大変素晴らしいプレゼンで本当に見て面白かったと思います。特に大阪府内にある市の魅力の凄さですね。スポーツあり、歴史あり、食あり、文化あり、海外との友好もあり、工業もあり、自然もあり、SDGs もあり、非常に沢山の魅力があつて、万博が帰結した時には本当に色んなことができると思いながら聞いていました。

まず堺井局長にお聞きしたいのですが、自治体との連携を進めたいという話ですが、各自自治体のプレゼンを聞いてどんな感想を持ったか、どういう連携をしたいのか、ご意見をお聞かせ下さい。

堺井氏：本当に素晴らしい多岐にわたるお話をいただきましたと思います。大阪・関西万博、『いのち輝く未来社会』というテーマで、万博会場だけでできることには非常に限りがあると思います。

また、2,820万人が来られるということですが、日本が、大阪・関西がこのテーマに関して取り組んでいくということを見せていくためには、万博会場以外のフィールドも非常に必要です。本日お話しいただいた自治体様と、世界に向けて発信していく、訪ねてきて体感していただけるようなフィールドとして、非常に魅力的なところが沢山あると思いました。



実際、大阪・関西万博は未来社会の実験場という形で1つの場所、1つの時間を切り出したことをそこで見せる形になります。そして、世界各国からソリューションを持ち込んでいただいて、皆で体験する形になります。その中で、まさにリアルでもう既に動いている場所があることを示すという意味では、そこにお連れして見ていただくのが、世界の方から見て未来を体験していただく一番の場所になる可能性があると思いました。今から万博に向けて取り組んでいく中で、まさに世界最先端の地域における取り組みが見せられると思いました。農業も漁業も、歴史に対する取り組みも、いのち輝く未来社会を見せていくというところでは、それぞれの取組をいかに真剣に進めていくか。いのち輝くという意味では健康、元気にスポーツや活躍することが非常に大事な要素となってくると思います。そういったことが言葉だけでなく、住民参加でなされているというところを見せていくことが本当の未来社会かと思っていますので、取り組みをされる自治体様とすぐに一緒にやって万博に取り組んでいながら、一緒になって世界への見せ方を考えていければと思います。

石川氏：ありがとうございます。確かに、万博の会場に来てパビリオンで見たものが実際にどうするのか、その先が見たくなると思うので、近くの自治体で取り組みがされていると、非常に有機的につながっていくなと思い、その視点は面白いなと思って聞いておりました。

川口副市長、東大阪の凄いところは、やはりスポーツを使ってまちおこしは非常に分かりやすいですし、特に海外の方にも訴求していく、特に花園は非常に良い財産なので、上手く使って万博に取り組むということだと思いますが、その辺の話を具体的にお聞かせ下さい。



川口氏：花園ラグビー場の今後の展望ですが、実は花園ラグビー場を中心としたこの花園中央公園は約36haあるのですが、昨年からはPark-PFI制度を利用して、1つの業者さんに花園ラグビー場を中心としたその他の様々な施設を管理していただくということで、一体的に花園を盛り上げて花園を中心に賑わいをつくっていかうということです。最近では、バーベキューコーナーをつくらせたり、北側の産業道路沿いには買い物ができる場もつくる予定にして

います。お子さまから若い人たち、お年召した方まで、ここへ来れば何かの楽しみができるという施設になろうかと思えます。もちろんラグビーの聖地ですので、全国大会も今後もずっとやって参りますし、FC大阪も関係を今つくっておるところで、試合も始めています。まさにスポーツを中心とした花園、東大阪というイメージのまちづくりをしていきたいと考えています。

石川氏：ありがとうございます。本当にラグビーワールドカップもあって、万博もあれば、本当、ここがおしゃれなスポーツパークになった、そんな感じがしました。

では永野市長、海の万博、本当にせっかく夢洲でやりますので、岸和田も上手くつながって海の万博をどのようにして盛り上げていくのか。現時点の考えをお聞かせ願えればと思います。

永野氏：まず感想としては、堺井局長には具体的な万博の話聞かせていただき、わくわくしました。日本全国の市長は、同じ仕事をしており、同じ課題を皆持っており、それぞれ手を変え、品を変えそれを解決しようとしています。私は市長になった時に、岸和田での取り組みは、全国の市長が困っていることを解決する 1 つになると考えました。だから、各市長は皆自分のまちで新たな取り組みをして、それを全国で活かそうという発想でやっていると思います。基本的にどのまちも同じ課題を持っているけれど、解決策は各まちそれぞれの色でやっていて、優秀な取り組み、失敗した取り組みを全国で持ち合うことによって日本全国が豊かになる、こういう気概で各まちの市長は皆奮闘しています。本日のプレゼンでもそれを凄く感じました。



海の万博について、面白いと思っているのは、泉州地域皆さんは海に面していますし、泉州地域には実は海に面していないまちもあります。そこにはそこにとっての海がきっとあります。海の万博を目指して、花園 EXPO に学びながら、何とか泉州地域で海の万博をやりたいと思っています。

石川氏：ありがとうございます。本当に夢がある話だと思います。花園 EXPO から、海の万博とつながっていくと盛り上がっていいと思います。

では、濱田市長、歴史から考えるというのはとても面白いと思って聞いておりました。万博は皆すぐ未来を見てしまうので歴史を忘れがちで、特に海外の万博はあまり歴史を振り返らないですが、日本の万博は 1970 年万博も結構歴史があり、歴史と未来、両方見れるのは大阪万博の良さだなと思ってます。そういう意味で、歴史にこだわる話をもう少し深堀していきたい、あとは将棋が全国的にブームになっていますので将棋会館を移してくることによるビジネスチャンスについてコメントいただければと思います。

濱田氏：歴史・文化をあえてお話させていただいたのは、昨今の国際化は日本のことが忘れられ



たような風潮がある。日本の発展が諸外国から色々なものを取り入れてそれを咀嚼してやってきたという歴史があるにしても、その反動が今出てきていると思っています。本当に日本の歴史は非常にユニークで世界にあまりない文明を持っていて、世界に誇るべき文明であり文化だということが日々、勉強してる中で分かりましたし、本日も各市プレゼンを聞いて再確認したところで、せつかくの万博なので、未来を見据えてどういった未来を

築いていくかも大切ですが、日本はこういう国だということをもう一度全世界に知ってもらおうという観点からも考えたほうが良いのではと思っています。

関西将棋会館については、建物が老朽化されてるということでお誘いさせていただいたら、移転を決定していただいたということで、今、まさに将棋ブームということもあって、時流にはまっっていく形になって我々も非常に喜んでいますが、将棋も本当に日本が世界に誇る伝統文化ですから、こういった伝統文化を我々自治体が守り、伝承していかなければならないと思っています。

石川氏：ありがとうございます。確かに国際化になると日本のことが忘れられるだろうと、かなり考えさせられる問題提起だと思って聞いておりました。この日本の良さをどんどん発信していくのは重要で、万博と自治体が連携してやっていくのは非常に納得感を持って聞いておりました。ドバイ万博でも日本パビリオンが人気なのは、やはり和食や日本の文化発信だと聞いておりますので、濱田市長の取り組みも本当に万博らしい取り組みだと思って聞いておりました。

では、千代松市長、海外との姉妹都市をこれだけ結んでるのは本当に凄いと思います。友好都市を増やしていくのは本当にこれから世界とのつながりが広がっていく中で重要で、万博で世界の人が来ることを考えたら、非常に大きな財産になっていくと思ってまして、なぜ、海外に友好都市を広げる取り組みをされてきたのか、万博に合わせて、どう加速させていくのかを教えていただければと思います。

千代松氏：今日の感想はもったいないなと思いました。もったいないというのは、大阪府内にこれだけ素晴らしい色々な資源があるのに、大阪府は残念ながら日本で一番小さい都道府県なのに43市町村もあり、個々に資源をPRしていて、もう少しまとまったほうが強烈にPRできるのではないかと思います。SDGs、持続可能な社会と言われてるのだから、持続可能な行政というものも率先してやっていかなあかんと思います。市民から寄せられる様々なニーズに対して、今の行政規模でやっていけるのかと考えたら、なかなか難しいと思った



りもする中で、本日改めてそれぞれ素晴らしい知見があるのに、個々にPRするからインパクトが強くない、これが率直な感想です。

海外の友好都市が増えたのは、泉佐野市から結んで欲しいと言ったわけではありません。関西国際空港に最も近いまちということで、海外のそれぞれのまちから引き合いがあり締結していったら自然と日本一になった、やはり関空が一番近いという地の利が泉佐野市にはあるので、関空は空の拠点でもありますし、実は陸の拠点でもあるのです。リムジンバスが姫路や高松、少し乗り換えたら東京まで、そういう交通網がございます。それともう1つ、海の拠点にもなれます。空港島は人工島ですから海の上にありますので、神戸空港と関空、高速とフェリーで30分で行けます。なので、海の万博。例えば、関空、成田、羽田から入って、ゴールデンルートを通して万博に入られる方もいらっしゃると思いますが、関空から入った海外方々は夢洲まで電車で行くより海の方が早いと思うのです。それを上手く利用して、例えばシャトルシップみたいな感じで岸和田市さんの地蔵浜みなとマルシェに寄ってから万博へ入るとか、そういう海の交通網を上手く築き上げたら空と陸と海が集中するわけですから、非常に大きな玄関口になれると思っています。

石川氏：ありがとうございます。また面白い視点を沢山いただきました。確かに、この交通の地の利をどう活用していくのかは、これからのまちづくりに大事な視点だと思いました。

では、水野市長、上手く自然を活かしたまちづくりをされているというのはとても良かったと思います。大阪湾はどうしても工業、物流のイメージが強いですが、実は凄く自然が豊かであるからこそ、岸和田で沢山魚が獲れたり、そういうことにもつながっていくと思うのですが、大阪湾の新たな魅力として自然というものもあると思った時に、やはり阪南市の取り組みは非常に注目されると思っておりまして、その辺の話を聞かしていただければと思っています。また、フレイルについてもどのような考えを持っておられるのかお聞きしたいと思います。



水野氏：夢洲で万博の本会場がありますと未来に輝くデザインをつくらうというのを阪南市もサテライトの会場としてしっかりと認めてもらえるようなまちづくりをやらないかと非常に思いを強くしました。海の万博ということで、良い環境を持つのが非常に社会的な責任を強く感じており、海もほっといたらやはり海でなくなってしまう、海はどうして豊かなままで今もあるのか、大阪湾全体がもっと豊かになる取り組みなり、学びをしっかりとやっ

ていく機会が万博だと実は思っています。それはCO2に関しても同じような思いを持っています。もう1つは、阪南市は市制30周年で、市内で活動する185の団体さんに感謝状等を渡しました。それは、地域においては自分たちの地域は自分たちで守ってつくるという自治の力をもっと付けてもらわなあかん。そして、コロナ禍で明らかになったのは、自分の健康を自分で守るといっても、どのように情報を集め、何をすればいいのか。自律性もしっかり高めていかなければいけな

い。その自粛の中で考えると、情報を中心としたネットワークをしっかりと構築しないと個人に目を向けたときに守っていくことができないのではないかと。世界中でパンデミックが起こって、日本で言っていることが、全世界でも同じように起こっていると思うので、本当に一人一人しっかりと当たり前の暮らしを行っていただける仕組みをとつくっていただけるような万博にぜひしたい、そういう学習の場であってほしいと思います。子どもたちもしっかり参加をして、この激動の10年、20年を育っていってもらわないといけませんので、投資という観点からも、ぜひこの万博をそういう意義のあるものにしていただきたいと思います。



石川氏:ありがとうございます。本当に大阪湾の豊かさをどうアピールするか、本当に鋭い視点だと思っております。

学習の場という非常に重要なキーワードもいただきました。1970年の万博が多くの子どもの心を刺激したみたいな感じで、次の万博もやはり多くの子供たち、若い人たちの心を刺激しないといけないのかなと思って聞いておりました。

千代松市長も仰られましたが、本当にこれだけ魅力が凄く沢山あるのに、自治体別の取り組みになっていてもったいないということは、本日も非常に感じています。万博を機に、大阪の自治体が上手く連携してアピールしていけないか、それを本当に痛感したのですが、永野市長、いかがでしょうか。

永野氏:自治体では、例えば市町村合併という話があって、今の各まちのサイズが本当に適切なのか。合併したほうが良いのではという議論があって、私もそう思っています。自治体が合併していく、それは地域課題でもあって、まちとまちとが1つになって、上手くいくかは本当にそのまちとそのまちの話で、縁談みたいなものです。自治体の合併なしで考えると広域連携という形で、案件ごとに自治体が協働していくということですが、これにつ



いては、泉州地域は例えば観光に関して、KIX 泉州ツーリズムビューローというのをつくって、泉州の自治体が全部入って、かつ企業も参画してDMOをつくって広域連携で泉州としての観光を考えよう、そのときに使っていく言葉は泉州やということで、例えば「岸和田の水なす」ではなく、「泉州の水なす」と皆が言う、こうしたほうがパンチが効いてきます。他にも、泉州は二色の浜、ぴちぴちビーチ、ときめきビーチ、サザンビーチ、マーブルビーチ等、浜がいっぱいありますが、例えば「泉州浜」と総称を付けたら、泉州にはものすごいいっぱいビーチがあるんだと世界にPRできると思うのです。このように観光の広域連携によって、これまでばらばらに称されていた例

えば農産物、観光資源を「泉州」という言葉 1 つでくくることによって世界に対しても発信力出てくるのではないかと思います。

石川氏：なるほど。昔聞いた話で、海外の人が旅行する理由の第 1 位が海水浴だそうです。万博の期間もちょうど暑い時期なので、海外から来た人が泉州浜に行こうとなるといいですね。その連携は非常に面白いと思うので強化して、世界中に発信したいですね。
では、北摂ではどのような動きがあるのか。北摂で頑張るのか、摂津全部で頑張るのか、ぜひ濱田市長に教えていただきたいと思います。



濱田氏：これがなかなか簡単そうで難しい問題で、北摂とひとまとめにも言えますが、例えば、高槻市は島本町と茨木市がお隣ですが、似てるようで似てないですし、文化も歴史もやはり全然違う。高槻市だけでも 104 km²あるので、合併を繰り返してできた市ですから、各地域によっても歴史や文化が違って、それが上手く融合して、独自の文化を醸し出していくという非常にいい面もありまして、私はそういうのが大好きなので、色んな地域に行っていて、その長老のような方から色々話を聞いたりします。そういう意味で、北摂も大きく分けると 2 つの地域になりますが、その 2 つの地域の中でもそれぞれに違いますから、一言ではなかなか言い難いと思います。

また、自治体の本来の役割は何かということから考えて話をするとややこしいので、本来、行政というのは、市民の生命、身体、財産を守ることが仕事ですが、それ以外の、地域のアピールをするということに関しては広く色んな市と連携して一緒に発信していこうというのは可能な話なので、そういう自治体としての役割と自治体としての発信を分けて考えながら色んな連携をしていく、そういう視点がいいかと私は思います。

石川氏：ありがとうございます。確かに、個で行くのか連携するのか、かなり難しい話だと思って聞いておりました。大阪、関西の自治体の首長さんは本当に真剣に考えて色んなことをやられていると感じております。

次の質問に移りますが、夢洲機構には企業も沢山入ってますが、自治体の方も沢山入っていただいて、我々も自治体との連携も手探りでやってる感じで、自治体の方から見て、企業とどういった形で連携していきたいのか。また、万博協会から見て、企業とどういった連携をしていきたいのか、そういったことについてご意見を賜って、次回以降の自治体 EXPO フォーラムに活かしたいと考えているのですがいかがでしょうか。水野市長、お願い致します。

水野氏：地域で暮らす一人一人の方、本当に安全、安心に自分らしく暮らしていくということが

凄く難しくなっています。万博が開かれて Society5.0 の社会を見せても、やはり暮らしていけないというような実態がどんどん進んでいくと思っています。それをしっかり早くキャッチして、どうすれば一人一人が安心して暮らしていけるのか。それが自立性と自律性をしっかりとサポートする、その情報を中心としたネットワークを構築する上でのプラットフォームをどこに行けばどうつながることができるのか、もっとハードルが低くてあればいいのと思っています。どこからでも協働できるというのは沢山はあると思っています。そういう意味では、別の機会でも発信できるような機会ありましたら、着実に協働共創の事業を実現していきたいなと思っています。本当にのどから手が出るくらい願っています。



石川氏：ありがとうございます。本当に本日阪南市の強みも、どういう課題抱えているかも分かりましたし、安全、安心に向けて企業ができる技術であり、ネットワークはあると思いますので、阪南市と一緒に組みたい企業はつないでいけると考えております。千代松市長、お願いします。

千代松氏：大阪・関西万博の翌年に開催される全国海づくり大会を岸和田と泉佐野どちらですのか誘致合戦をしています。天皇陛下が行幸される4代行幸のうちの国体、文化祭、植樹祭、海づくり大会のうち、海づくり大会は、大阪は海があるのに開催したことがありません。大阪湾は全国の漁業関係者から見たら、規模が小さいですが、本当に素晴らしい資源、魅力、漁業なので、大阪・関西万博の遺産として大阪湾を魅力あるものにし、企業さんと連携を深めていけたらと思います。



石川氏：ありがとうございます。海の万博の可能性の凄さを感じています。では、濱田市長、お願いします。

濱田氏：前提として、我々地方自治体が考えなければならないことがあります。地方自治体とは一体どういう役割を持っているか。公共機関ですので、市民にとって必要な事業をしっかりとやっていくという自覚を今後は持っていかなければならないと思います。我々そういう気持ちでやっていきますが、地方自治体はお金がありません。企業の皆さんにもそれを分かっただいて、地方自治体ではなく国にもっとお金を出してと一緒に言っていたきたい。そのきっかけになるのがこの万博だと思います。万博をまさに未来のためにやるのですか

ら、未来への投資という意味でインフラ整備含め、これを機に国にもっと関西、大阪にお金を投入して欲しいと我々も企業の皆さんも一緒に声を上げていければいいのではと思います。

石川氏：ありがとうございます。確かに、万博は閣議決定された国のプロジェクトですので、それに対して自治体と企業が協働に手を組んで意見を言うてくのは非常に重要な視点だと思います。では、永野市長、お願いします。

永野氏：市役所と企業の立場、発想、ルール、お互いに縛られているものが違う中で、1つの課題に対して向き合う時に新しいものが生まれると思います。行政と企業が手を組んだことによって解決できるということがあると思います。

例えば、岸和田城は昭和 29 年に建てられたものなので耐震性が実は十分ではなく、建て替える、もしくは耐震化の工事をするかという問題があります。岸和田城という歴史的文化的遺産を守る方法を企業さんと一緒に考え、例えば観光戦略と上手く組み合わせることにより収益性もある形で岸和田城を再建できれば、市民にとって大切なものを残し、企業は儲かり、役所は費用を抑えられるかもしれません。一緒に考えていくことが行政と企業との助け合い、協働かと思えます。

石川氏：ありがとうございます。互いの違いを認識しながら課題に対して解決していく。大変重要ですね。では、川口副市長お願いします。

川口氏：昨年、東大阪市の市内組織に公民連携協働室をつくり、16 の企業、団体と包括連携協定を結んでいます。先々週、このラグビー場 VIP ルームで、団体と企業さんが一堂に会する初めての場面があり、非常に盛り上がりました。これからは共創の時代であろうと思います。市内に限らず市外の企業さんとも交流し、お互いの利益のために追求していく。万博に向けてこれから整備・運営される時には夢洲機構さんが各大阪府下の自治体を全部入れていただいて、もう大阪府内で完結する。大阪府の自治体の名物、特産品で全て賄う、そういったことを我々で目指してもいいのかなと、ちょっと飛躍した話ですが、そう思っています。



石川氏：大変熱い言葉、ありがとうございます。夢洲機構も頑張って、上手く横串が通せばいいと思います。では、堺井局長、最後に本日の感想をお聞かせ下さい。

堺井氏：理想の社会の方向性を国が出してもいいですし、民間発で国にこういうことやろうと言ってもいいので、方向性を決めた時に企業だけでなく、自治体が住民サービスとして一緒に合わせて進んでいくというモデルをつくる良いチャンスだと思います。全ての分野に広がって行き得

るので、それぞれの方向性で万博を機に進めていくのが良いのではと思います。

せっかく実現した万博をどう使うかに遠慮をすることは無いと思います。遠慮をすることなく、こういう形に持ってこうという方向に皆の力を集めて実現する機会を我々は得たと思います。国も良い方向に、万博を機にやりたいと思って、制度も変えてやってくぞという感じで万博担当大臣ができました。この万博が大阪、関西、日本の起爆剤となる。

世界のSDGsを達成するために、日本がこれだけできるんだとアピールし、それを世界に訴えかけ、世界にそれらを買ってもらいたい。そうなる良いきっかけが万博にはあります。ですので、色々な課題の解決をこの万博を使ってやっていこうということで一致団結する良い機会かと思えます。3年半後の万博に向けて方向性を決めていく今がチャンスだと思います。夢洲機構の皆様、本当に良いチャンスです。是非とも自分たちで動かしていきましょう。我々万博協会も皆さんと一緒に取り組んでいきましょう、そういった気持ちでございます。



石川氏：素晴らしいまとめをありがとうございます。本日の結論は、皆でやろうということだと思います。これを機に一致団結してやっていきたいと思えますし、フォーラムの回数を増えるごとに一致団結感が高まるようにしていきたいと思えます。万博協会さんもどんどん一緒に協力していただければと思います。ありがとうございました。

閉会の辞

永野 耕平氏 岸和田市長



本日は長時間にわたり、ありがとうございました。堺井局長が仰られたように、誰も遠慮することはないし、思いのままに突き進んで万博を利用して世の中を変えよう、悩みや課題を万博を利用して解決しよう、そういう思いを企業も自治体も市民も、皆が持つことが大事だと思います。この姿勢を皆が持つことによって結果的にどんな万博になるか、最終的な姿は誰にも想像できないですが、万博が人類にとって有益なものになることは間違いありません。それぞれの課題をしっかりと認識し、この万博を通じてその課題を解決していこう。そのために自分と立場の違う方々、自分と異なった考え方を持つ方々と協働して前に進める姿勢を持つことによって、より豊かな社会を築けると思えます。どうぞ皆様、ご期待ください。本日は誠にありがとうございました。